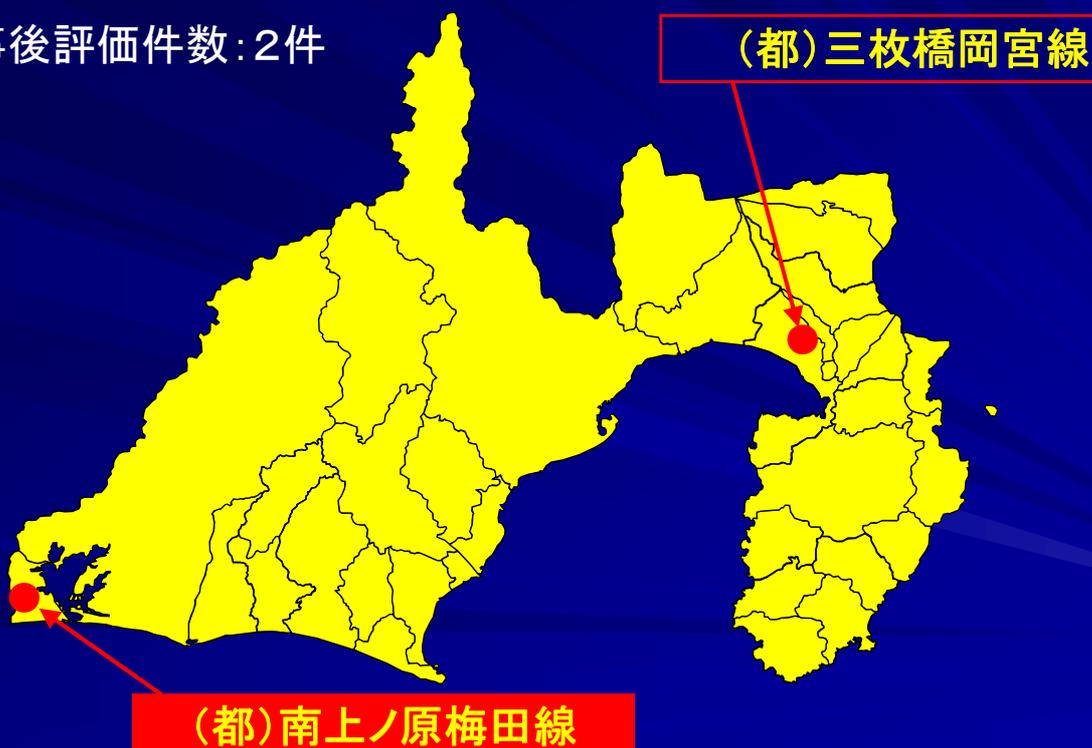


都市局 事後評価実施箇所 位置図

事後評価件数: 2件



1

平成27年度

公共事業事後評価（街路事業）

都市計画道路 南上ノ原梅田線

交通基盤部 都市局 街路整備課

2

3. 事業の投資効果

費用便益比: B/C=1.10

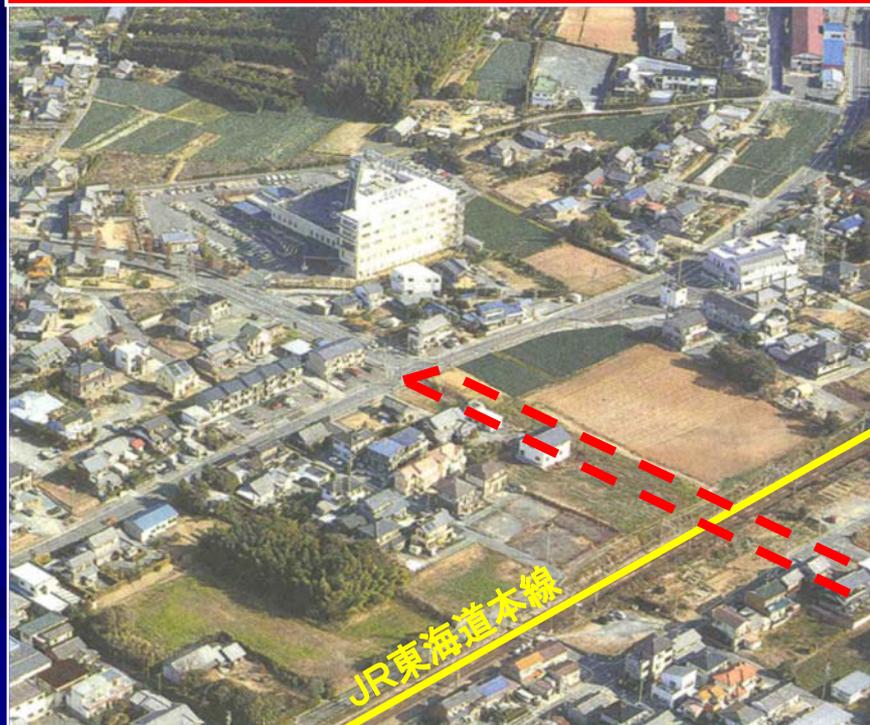
総便益(B)の現在価値	40.7億円
走行時間短縮便益	30.7億円
走行経費減少便益	8.1億円
交通事故減少便益	1.8億円

総費用(C)の現在価値	36.8億円
事業費	36.6億円
維持管理費	0.2億円

5

4. 整備による状況の変化

整備前



6

4. 整備による状況の変化

整備後



7

4. 整備による状況の変化

(都) 南上ノ原梅田線周辺の市街地の形成状況



8

5. 事業の効果①

円滑な交通の確保

- 交通の転換による並行路線の混雑度低下が発生

市道新所原笠子線 H17(整備前) : 1.22 ⇨ H27(整備後) : 0.82

(都) 長谷岡崎線 H17(整備前) : 0.64 ⇨ H27(整備後) : 0.57

市道新所原笠子線の交通状況

整備前



踏切を有する路線への交通集中による渋滞の発生

整備後



交通量減少による混雑度低下

9

5. 事業の効果①

円滑な交通の確保

- 走行速度が向上し円滑な交通を確保

市道新所原笠子線 H17(整備前) 14.9km/h ⇨ H27(整備後) 15.0km/h)

(都) 長谷岡崎線 H17(整備前) 28.6km/h ⇨ H27(整備後) 31.6km/h)

(都) 南上ノ原梅田線

整備後



混雑度0.72 (1.0未満)

(都) 長谷岡崎線

整備後



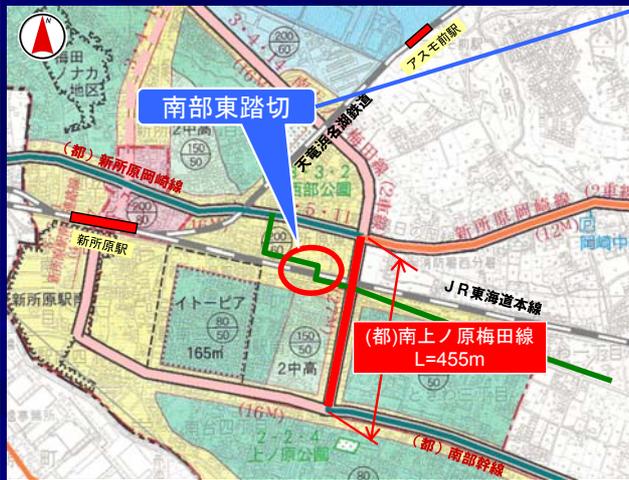
交通量減少による走行速度向上

10

5. 事業の効果②

狭隘踏切廃止による危険解消

- 本路線の整備により、幅員約3.3mで歩車分離されていない主要地方道豊橋湖西線の南部東踏切を廃止することで踏切事故の危険を解消



整備前（南部東踏切）



狭隘踏切の廃止による踏切事故の危険解消

危険解消

整備後（踏切廃止）



11

5. 事業の効果③

安全で快適な歩行空間の創出

- 自転車歩行者道の設置により、自動車と歩行者等の通行分離が図られ、安全で快適な歩行空間を確保

整備後（(都)南上ノ原梅田線）



広幅員の自歩道整備により歩行者の安全性・利便性が向上



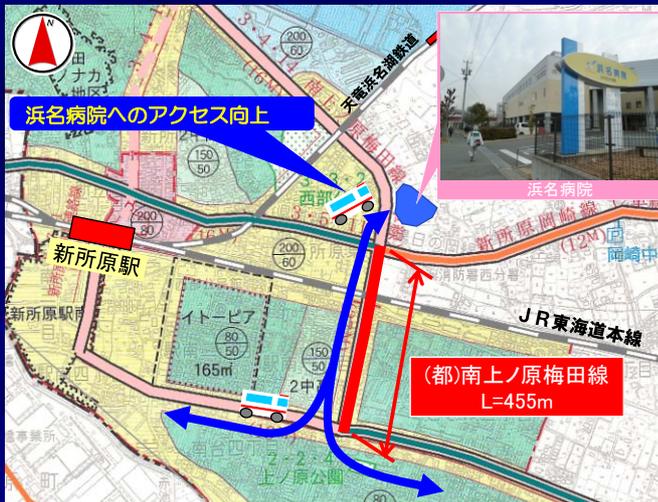
12

5. 事業の効果④

災害時の機能確保

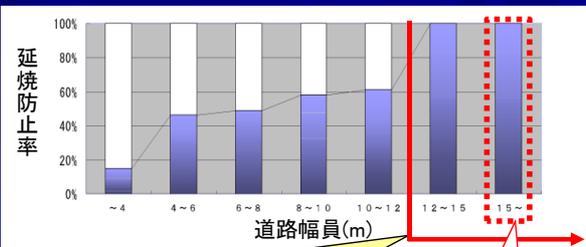
- ・ 県の医療救護計画に基づく救護病院である浜名病院へのアクセス向上
- ・ 地域内の延焼防止機能が向上

浜名病院へのアクセス向上



道路幅員別の延焼防止率

(阪神・淡路大震災における神戸市長田区の事例)



道路幅員が12m以上になると延焼停止率が100%となり、万一の際の延焼を防止

(都)南上ノ原梅田線



(都)南上ノ原梅田線は幅員W=16.0mであり、延焼停止率100%に相当する。

13

6. 事業実施による環境の変化

本事業による周辺への大気環境の改善効果

- ①CO₂(二酸化炭素)排出量の削減
削減量624トン/年、削減率0.3%
(221,193トン/年→220,568トン/年)
- ②NO_x(窒素酸化物)排出量の削減
削減量1.84トン/年、削減率0.3%
(593.59トン/年→591.75トン/年)
- ③SPM(浮遊粒子状物質)排出量の削減
削減量0.11トン/年、削減率0.3%
(30.56トン/年→30.46トン/年)

14

7. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

■新所原駅南北自由通路の新設

- ・新所原駅の交通結節点の強化と駅の利便性向上を図るため、南北自由通路の整備を推進



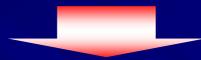
■新所原駅南土地区画整理の完了

- ・新所原駅南側7.9haを対象に平成13年度から平成24年度にかけて整備

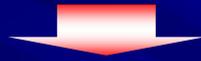


8. 今後の課題・対応

湖西市西部における都市計画道路の整備を進めている。



未着手の区間が存在する。



湖西市西部全体の都市計画道路の全線開通により、
更なる効果が期待される。

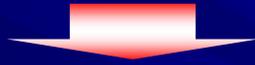


未着手区間の早期着手及び完成に向けて努めていく。

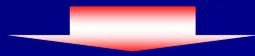
9. 対応方針(案)・同種事業への反映等

湖西市西部の南北幹線道路の整備により、

- ①円滑な交通の確保
- ②安全で快適な歩行空間の創出
- ③狭隘踏切廃止による危険解消
- ④防災機能の向上



地域内交流の連携強化に寄与
事業効果は十分発現しており、
改善措置の必要はない



街づくりに効果的な街路事業の推進
効率的な推進のため、
住民理解を得られるよう努める